

■第2期大洲市立幼稚園・保育所再編計画【案】パブリックコメントの結果

第2期大洲市立幼稚園・保育所再編計画【案】のパブリックコメント（令和6年12月18日～令和7年1月18日）を実施したところ、計8名、延べ21件の意見が提出されましたので、意見の概要及び意見に対する本市の考え方を公表します。

No.	関連箇所	意見の概要	対応（回答）
1	1章-(1) 計画の目的	<p>これだけ少子・高齢化、若年層は市内に残る方もいるが、市外へ行く方も多い中、見直し・統廃合は致し方ない(賛成)と考えます。 5年10年その先の事を考え、人口・税収減等色々な事を考え、予算の配分(予算も厳しい中)を考慮すべきです。 (どこかにシワ寄せがくることは、仕方ないと思います。) 「地区が寂しくなる」という感情論で、子供の将来を守ることができますか？ 市に対し地区側が問題提起するならば、論理的に文章・数字等で示すべきです。当事者の方たちのことを一番に考え、このことを考えていくべきです。</p>	<p>御意見のとおり、こどもの将来を守るのは我々大人の大切な役目です。そのためにも、こどもの健全な成長を第一に考え、集団で多くの友達と関わることのできる環境の構築と質の高い教育・保育の実現を目指し、本計画(案)を推進します。</p>
2	1章-(2) 計画の位置付け	<p>総合計画を最上位に市政をすすめる責任があるのに、いともやすく社人研推計をつかう計画書がつくられているのかわかりません。いいのですか。総合計画を議会で決めた意味がないし、市長の政治姿勢が問われます。</p>	<p>御意見のとおり、本計画(案)は、大洲市総合計画及び大洲市まち・ひと・しごと創生総合計画における子育て行政の実施計画として、また、大洲市こども計画に基づく、公立就学前施設の管理運営計画の位置づけです。 しかしながら、P6に記載のとおり、加速する人口減少にも対応し、「こどもまんなか社会」の実現を図る必要があることから、第2期総合戦略策定以降における本市の急激な出生数の低下なども踏まえ、より現実に即した内容とするため、社人研推計を基に推計値を算出しています。</p>
3	2章-(2) 運営費の状況	<p>運営費について 再編計画(4P)より抜粋 大洲市の今後の財政は、人口減少の進展や新型コロナウイルス感染症の影響により、市税や地方交付税交付金、その他自主財源の減少が見込まれており、社会保障関係経費や公共施設などの維持管理経費の増加などにより、財政負担が増えていくことが想定されます。 そのため、これまでと同様の財源確保が困難となるため、人口減少の進展の影響を受けにくい施設運営への変革が求められます。</p> <p>これからの未来を支える子どもたちに係る『財源の確保が困難』となるとし、再編を進めるとしているが、子育てに関わる費用は自治体として必要経費で、それを削減すれば子どもの減少に歯止めがかからなくなるとともに、子どもたちの可能性を狭めることになる。</p>	<p>運営費につきましては、施設再編を必要とする背景となる、現状と課題を整理する中で、入所(園)児童数の推移、施設の状況とともに記載しています。 本計画(案)の趣旨は、安心・安全な環境の下、「一定規模の集団形成」と「持続可能で質の高い保育機能の確保」の実現を目指すものです。</p>

No.	関連箇所	意見の概要	対応（回答）
4	4章 アンケート調査から見た施設の在り方	再編計画のアンケートについて 未就学児童の保護者を対象にアンケートを実施し、その結果、『集団の中での保育が望ましいという意見が多く、～施設の統廃合を進め、』としている。しかしアンケートの設問は、『保育施設統廃合のメリットは何ですか』といった内容で、統廃合を望んでいるかという内容ではない。 さらに、小規模園の保護者が最も求めているのは、今の園で子どもの人数が増えることであることを考慮に入れずに、統廃合を望んでいると結論付けている。	アンケートにつきましては、子育て世帯の保育ニーズに寄り添った再編計画とするため、保育施設の統廃合について考えられるメリット、デメリット、適正人数についてお伺いをしたものです。
5	5章-(1)(2) 持続可能性を高める施設再編 質の高い教育・保育の実現	こども園化することによるメリットが見えない。 子育て世代に対して、こども園が何か、再編するとどう変わるのか、説明を受けたことがなく、良さがわからない。結局保育所籍と幼稚園籍で分かれて活動するのであれば、別々のほうがよい。幼稚園も預かり保育があるので、親が働ける。現状各幼稚園では、教育施設として申し分ない教育を受けることができている。この良さがぼやけてしまうのでは、と危惧する。「質の高い教育」とあるが、どんな風にするのか。現場の先生方の声が反映された計画のように思えない。	こども園化の意義は、P11に「多様な教育・保育ニーズに対応」と記載のとおり、幼稚園への入園希望、保育所への入所希望のどちらにも対応するもので、国がこども大綱で示す、誰一人取り残さない「こどもまんなか社会」の実現に向けて取り組むものです。
6	5章-(1)(2) 持続可能性を高める施設再編 質の高い教育・保育の実現	保育士の質の向上のためになぜ施設の集約なのか。 施設の集約が、本当に質の高い教育・保育につながるのか。それらは別の問題であり、保育士が足りていれば、施設を減らす必要がない。放っておけば保育士の数は減少していく。質の向上、利用者のニーズに応えるためには、市として施設を減らすのではなく、保育士を増やすことのほうが大切である。	保育士不足解消と質の高い教育・保育を実現するため、P11に記載の「保育士の集積が進むことで、安全管理や観察にかかる機能を高めながら、こども一人ひとりの資質や能力を磨き、生きる力の基礎を培うための教育・保育の質の向上を目指す」ことを基本方針としています。
7	6章-(1) 再編方針	現在、長男が平野幼稚園に通っており、平野幼稚園に関する意見を述べさせていただきます。再編による平野幼稚園のこども園化には反対する。 平野幼稚園は平野小学校・中学校が推進している小中一貫教育に組み込まれる形で、異学年交流活動を通して教育を行っている。これは園児・児童・生徒の地域交流および精神的発達に良い環境であり、継続していくことでこそ真価が発揮されるものと考えます。この異学年交流活動は、平野幼稚園が現在の体制であるために実現しており、再編によるこども園化は本来の異学年交流のねらいを阻害するものと推測する。 加えて、平野幼稚園の年度別児童数は10人前後で推移しており、減少傾向はなく、むしろ増加傾向にあると読み取れることもできる。昨年平野地区に移住してきた若年世帯も複数あり、今後も安定した児童数が見込めることから、平野幼稚園の再編によるこども園化には反対する。	幼小中と同じ敷地内にあることによる交流活動も魅力の一つであります。同様に、「多くの友達と関わり、様々な体験を重ねる中で育まれる共同性や道徳性、規範意識の芽生えなど、こども一人ひとりの資質や能力を磨き、生きる力の基礎を培う」ための教育・保育も大切であると考えております。本計画(案)は、安心・安全な環境のもと、国が示す「一定規模の集団形成」と「持続可能で質の高い保育機能の確保」の実現を目指すものです。その中で、今後、保護者や地域の方と協議を重ねながら検討していきたいと考えています。

No.	関連箇所	意見の概要	対応（回答）
8	6章-(1) 再編方針	<p>条件付きの賛成</p> <p>①護岸工事をしたことにより、市内にも浸水被害が広がる可能性が高いので、郊外の高い地域に異動して、子供の安全確保が出来ること。（平野町は最適地域だ）</p> <p>②地域のよさ、交流の多さ、温かさ、見学できる行事の多さなど幼稚園のよさを多くとり入れ、子供たちが毎日どんな活動をしたのかすぐに分かる、伝わるオープンな様子を常に感じられること、園内の様子が筒抜けなくらい。</p> <p>③再編するのであれば、多くの保育士、補佐の先生（1クラスに担任1人、補佐2、3人）を取り入れ、目をよく光らせること。けがや事故を防止するため。</p> <p>④駐車場は広くてゆったり止めれること。（園と離れた場所でないこと）</p> <p>⑤すべてをこども園化するのであれば、降園時間は現在の幼稚園と同じ15時にすること。働いている共働き世帯に金銭負担が少なくなるようにすること。（預かり金等）</p> <p>⑥色々な子供たちがおり、それぞれの性格にあった施設で、のびのび楽しく、毎日元気に登園できるようにすること</p> <p>⑦万が一災害がおきた場合、高台のような避難場所になること。 幼稚園特有の良さを残してほしい。</p>	<p>御意見を参考にし、災害については地震や土砂災害なども想定しながら、御提案のニーズに応えられるよう再編の実現に努めます。今後、保護者や地域の方と協議を重ねながら検討していきたいと考えています。</p>
9	6章-(1) 再編方針	<p>校区の平野幼稚園が統合されるのはさびしいことではあるが、時代の変化に伴い、致し方のないことだと思うが、いきなり大洲こども園に統合されるのは反対である。まずは平野・久米幼稚園の統合をして、数年は様子を見て欲しい。その際、園舎は浸水しない場所を選んで欲しいと思います。</p> <p>統合しても、幼稚園教育の部分は残して欲しいし、平野小・久米小など交流する機会は設けて欲しいと思います。</p>	<p>御意見を参考にし、災害については地震や土砂災害なども想定しながら、御提案のニーズに応えられるよう再編の実現に努めます。今後、保護者や地域の方と協議を重ねながら検討していきたいと考えています。</p>
10	6章-(1) 再編方針	<p>子どもが平野幼稚園に通っています。少人数でも子どもは楽しく通っていますが、少人数で保育を続けることが難しい、またやる事が限られることは分かります。近隣の保育園や幼稚園との統合も仕方ないと思います。</p> <p>ただ、個人的な意見としては、平野は幼小中が同じ敷地内にあり、地域行事や交流をしているのはすごくいいなと思っているので、平野幼稚園は残してほしいなというのが正直なところなんです。</p> <p>もし久米幼稚園と合併するのなら、場所の問題やPTA活動のやり方等違うと思うので、保護者は困惑する人もいるだろうし、そこをまとめるのは難しいと思います。なので統合をするのなら、久米と平野をまとめて大洲こども園に統合するのがベストなんだと思います。ご検討よろしくをお願いします。</p>	<p>御意見を参考にし、地域の実情など様々な観点から総合的に判断し、今後、保護者や地域の方と協議を重ねながら検討していきたいと考えています。</p>

No.	関連箇所	意見の概要	対応（回答）
11	6章-(1) 再編方針	こども園化について 『久米幼稚園・平野幼稚園については、子ども園化を検討する』とあるが、子ども園化されるとどうなるのか、現在の幼稚園と比較してどこがどう変わるのかが、計画案では示されておらず、その良否の判断ができない。	こども園化に関しては、P11に「多様な教育・保育ニーズに対応」と記載のとおり、幼稚園への入園希望、保育所への入所希望のどちらにも対応するもので、国がこども大綱で示す、誰一人取り残さない「こどもまんなか社会」の実現に向けて取り組むものです。
12	6章-(1) 再編方針	大洲こども園への統合について 現在は、通った幼稚園の校区にある小学校へそのまま通うこととなっている。河辺が肱川こども園に統合された場合も同じであるが、例えば3才～5才まで大きな園に通い、親しい友達ができただけで、小学校進学時に少人数の小学校へ通うことに抵抗を感じる子ども、保護者も出てくると考えられる。その結果、小学校進学を機に大きな学校の校区へ引っ越し家庭が出てくる可能性がある。 そうした場合、小学校の人数が減少することにつながり、小学校の活動にも影響がある。	施設の統合につきましては、P11に「こどもたちには一定規模の集団の中で群れ遊び、互いに切磋琢磨することで、国が示す、多くの友達と関わり様々な体験を重ね、共同性や道徳性を育み、規範意識の芽生えを促す環境の構築を図ります。同時に、保育士の集積が進むことで、安全管理や観察にかかる機能を高めながら、こども一人ひとりの資質や能力を磨き、生きる力の基礎を培うための教育・保育の質の向上を目指します。」と記載のとおり、市内のどの地域のこどもに対しても、等しく一定規模の集団での質の高い教育や保育を提供し、こどもの可能性を広げるものであると考えています。
13	6章-(1) 再編方針	統廃合するたびに急激に子どもの数が減っています。やめるべきです。いかに地域おこしするかが最も重要で、子育て環境を先にうばっていくやり方です。反対します。	再編の基本方針としては前述のとおりです。 再編・統合は少子化の進展する中で、良好な教育・保育環境の実現を図るために行っているものです。
14	6章-(1) 再編方針	河辺について、送迎をすると書かれているが、肱川町までは、幼児にはかなり負担がかかる距離がある。また、平野や久米、他の地域では、送迎をしないのか。保護者の送り迎えは、近くだからできるのだと思う。保護者にとって、負担が増す計画である。	河辺地域からの送迎につきましては、安全で円滑な車両運行に努めます。 その他の再編・統合に伴う送迎車両の運行の有無につきましては、事案ごとに保護者や地域の方と協議を重ねながら検討していきたいと考えています。
15	6章-(2) 再編に向けて配慮すべき事項	パブリックコメントの実施時期について 再編計画（17P）より抜粋 (2) 再編に向けて配慮すべき事項として ① 保護者や地域に対する説明 少子化の進展速度や施設の老朽化の状況を考慮すると、施設の再編は迅速に進めていく必要がありますが、利用する保護者や地域の方が不安になることのないよう、説明会の開催や広報による周知などを丁寧に行います。  とあるが、既にパブリックコメントの提出期間（12月18日～1月18日）であるのに、保護者への説明会の開催が未定であり、保護者の意見がパブリックコメントに反映されにくい状況であること。	説明に關しての記載は、計画策定以降、再編に向けて本計画の趣旨をより多くの方にご理解いただくため、説明会の開催や広報での周知を丁寧に行うことをお示したものです。

No.	関連箇所	意見の概要	対応（回答）
16	6章-(2) 再編に向けて配慮すべき事項	パブコメを市民説明会を開かず実施するやり方はおかしい。計画の中に説明会を開くと明記していらっしゃるよ。 (ウソですか)	説明に関する記載は、計画策定以降、再編に向けて本計画の趣旨をより多くの方にご理解いただくため、説明会の開催や広報での周知を丁寧に行うことをお示したものです。
17	その他	<p>子どもの少ない地域で子育てをすることは、多くの不便さや労力を必要とし決して楽なことではないが、その地域全体の活力ともなり、褒められこそすれ、財政の負担となると責められるようなものではない。</p> <p>そもそも子どもが減少する状況の責任は行政にあるのではないか。先に述べたように、各地区で安心して子育てができる環境づくりに行政と地域が万策を尽くし、それでもなお叶わなかった先に統廃合があるのではないか。</p> <p>大洲市はこれまで小学校の統廃合を進めてきた。それによって小学校がなくなった地域がどうなったのか、子どもたちの減少に少しでも歯止めがかかったのか、幼稚園、保育所の統廃合がどのような影響をもたらすのか、それらの考察が足りないように思う。</p> <p>子どもが減るということは、今後の大洲市を支える人口が減るということ。今後に向けた人口の目標とそれに対する施策、そして毎年その成果の見直しと評価を行うことなしに、人数が減れば統合を行うことは無責任である。</p> <p>また、保護者宛に本計画についてのパブリックコメントを実施している旨の書類が送られてきたが、その募集期間を書類に明記するべきである。</p>	<p>本計画(案)は、市内のどの地域の子どもに対しても、等しく一定規模の集団での質の高い教育や保育を提供する必要があるとの視点からまとめたものです。</p> <p>御意見のとおり、少子化の進展は将来における地域社会の担い手の減少を招く懸案です。P1に記載のとおり、現在、大洲市に限らず、全国の多くの地方都市では人口減少や少子高齢化が急速に進展しています。</p> <p>この現状を踏まえ、国では、少子化の進展下においても、生まれてきた全ての子どもが、将来の持続可能な社会の担い手となるための、良好な成長環境の整備により「こどもまんなか社会」を実現するため、こども大綱を策定しました。</p> <p>本市におきましても、同様の理由からこども大綱を勘案した大洲市こども計画の策定を目指しており、本計画(案)は、大洲市こども計画に基づき、「こどもまんなか」の視点でまとめたものです。</p> <p>パブリックコメントの案内文書への募集期間の記載に関しましては、今後の参考にさせていただきます。</p>
18	その他	<p>老朽化でなく、人数が少ないという理由だけで、閉園の必要があるか。</p> <p>休園という選択肢もある。休園であれば、通いたい人があれば再開できる。地域の施設をなくすことは、移住やUターンを狭め、人口のさらなる流出につながる。これは若い人だけでなく、他の世代の人口流出にもいえると考えます。休園中の維持管理で市民の雇用を生む、休園中に市民の施設として貸す、などの方法も検討できるのではないかと。</p>	<p>人数が少ないことが再編理由となることにつきましては、P1に記載しています「多くの友達と関わり、様々な体験を重ねる中で育まれる共同性や道徳性、規範意識の芽生えなど、こども一人ひとりの資質や能力を磨き、生きる力の基礎を培う観点からも、非常に重要かつ対応が急がれる課題」であるためです。</p> <p>施設の活用等については、地域の方と協議を重ねながら検討していきたいと考えています。</p>
19	その他	<p>こども園で、親や地域との連携をどうやってとるのか。</p> <p>保育所に預けている親は忙しく、園に出向いて活動する機会は幼稚園より少ない。こども園化すれば、活動は人数の多い保育所籍の保護者に合わせる形にならないか。</p>	<p>再編後におきましても、保護者や地域とも、できる限りの連携を図っていきたく考えています。</p> <p>また、保護者の就労状況の違いにつきましては、就学後のPTA活動等同様に、それぞれの状況を尊重し、円滑な園活動が行えるよう理解を求めていきます。</p>

No.	関連箇所	意見の概要	対応（回答）
20	その他	<p>子育ての根幹は、やはり地域の中で育つことではないだろうか。家の近くに保育・教育施設があり、地元で安心して預けられることが、そこで子どもを育てる条件となるように思う。</p> <p>それに対して、今回の再編計画は、それぞれの地域に置かれている施設をなくし、子どもを集約するという計画で、利用する人の利便性や地域との関係性が失われるものである。お金や保育士不足の問題が先行し、それに理由を付ける計画のように思える。</p> <p>これまで地域に保育所や幼稚園が残ってきたのは、そこに利用したい人がいて、それを支える地域の人がいたからである。子どもの数が減っても、先生やPTA、地域活動と支え合って、様々な工夫をしながら、みんなで子どもを育ててきた。どこの地域でも、子どもは宝、という思いのもと、同じようにやってきただろう。</p> <p>河辺幼稚園では、他園との交流を週に1回くらいのペースで行っており、その甲斐あって、子どもは親しいお友達ができたり、集団の中で係の活動をしたり、集団のペースに合わせて行動するといった経験を積むことができている。保護者として、現状子どもの情緒の発達、生活面の発達で困っていることはないし、逆に言うと他の園の子にはないほどの、いつもと違うグループに単身で突然飛び込んで活動するという、貴重な経験ができているとも思っている。</p>	<p>施設の再編・統合がきっかけとなって、閉所した地域の活力低下につながるのではないかと御心配についてですが、市内には、再編により、保育所等の施設が存在しない中でも、地域の子どもたちと交流を図りながら、資源を生かして地域活性化に取り組まれている地域も多くあります。</p> <p>本計画(案)は、公立施設を利用する市内全てのこどもの育ちにとって、一番必要な環境は何か、また、どのような環境の中で育つことが望ましいのかといった視点から検討し、まとめたものです。</p> <p>河辺幼稚園の現在の取組も、本計画(案)の趣旨とする、多くの友達と関わり、様々な体験を重ねる中で育まれる共同性や道徳性、規範意識の芽生えなどを意図するもので、本計画(案)は、市内全ての施設で「日常的に」集団での教育・保育の実現を目指すものです。</p>
21	その他	<p>施設が人数に合わなくて維持が大変なら、小さい施設を設ける、長期的に多目的に使える施設をつくるなど、統合の他にも方法があるのではないだろうか。収容人数はどの施設も少なくないのに、集約するときに当たり前のように児童数の多い方に集約するのはなぜだろうか。</p> <p>今まで、各施設は意味があって残してきた。保育所や幼稚園は小・中学校と同様に、地域に関わりが深い施設である。保護者だけでなく、地域全体に大きく関係する計画であるから、アンケートやヒアリングは広く市民全体に行うべきであり、それぞれの地域とよく相談する必要がある。また、子育て支援課だけでなく、教育委員会等他の部署や自治会とも連携して、検討を行ってほしい。</p>	<p>前述のとおり、本計画(案)は、公立施設を利用する市内全てのこどもの育ちにとって、一番必要な環境は何か、また、どのような環境の中で育つことが望ましいのかといった視点から検討し、まとめたものです。</p> <p>その根拠となる大洲市こども計画(案)は、教育委員会をはじめ全庁的な検討組織である大洲市こども計画策定委員会において検討し作成したものです。</p> <p>今後、計画の推進におきましても、それぞれの部署が連携しながら、市民の皆様とともに「こどもまんなか社会」の実現を目指したいと考えています。</p>